

デザイン塾：デザイン科学、Mメソッド、 そしてタイムアクシスデザイン

平成 25 年 8 月 1 日 (木)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会 (DTM) の 2013 年度活動：「デザイン塾：デザイン科学、Mメソッド、そしてタイムアクシスデザイン」が開催されました。本活動は、デザイン塾とDTMによる主催、第2支部、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会の共催により行われました。

はじめに、DTM主査の松岡より、知の統合としてのデザイン科学とデザインの新パラダイムであるタイムアクシスデザインの説明がなされました。まず、細分化された様々なデザイン領域の共通の基盤を目指す「デザイン科学」と、その基盤をなすデザイン理論の枠組みの1つである多空間デザインモデルについての紹介がなされました。また、これらのデザイン科学において蓄積された知見を世界へ発信するための「デザイン科学辞典」が公開されました。さらに、デザインの理論や方法論に時間軸の概念を導入するデザインの新パラダイムであるタイムアクシスデザインの概念の説明が行われました。特に、年・月、日・時、および分・秒などの異なる時間スケールを考慮するマルチタイムスケールモデルを紹介し、時間軸導入に対するデザインの新たな可能性について話題提供がなされました。

つぎに、湘南工科大学の高野修治教授より、デザイン科学の応用である「Mメソッド」とその事例適用に関する説明が行われました。また、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の Jaime Alvarez 特任講師より、多空間デザインモデルに基づく社会的文化的アプローチによるコミュニティ・モビリティシステムの分析について講演が行われました。さらに、DTMで議論が進められている「タイムアクシス・デザイン」のモビリティシステムへの応用についての講演が上村昭一氏 (マツダ株式会社) より行われました。

さいごに、デザイン科学やタイムアクシスデザインに基づく研究事例や作品 (全 5 件) の紹介が学生より行われました。本活動においては、デザインに関わる研究・教育者の方々 (岡山県立大学、静岡文化芸術大学、芝浦工業大学、湘南工科大学、東海大学、長岡造形大学)、実務者の方々 (GK テック、HDS、デジタルプロセス、東芝、東芝テック、ニコン、日産自動車、マツダ)、学生を含む約 50 名の方にお越しいただき、デザイン科学とタイムアクシスデザインの可能性について活発な議論が行われました。



高野修治教授による講演の様子



松岡由幸教授による講演の様子



Jaime Alvarez 特任講師による講演の様子



上村昭一氏による講演の様子



会場の様子



学生による研究、作品紹介の様子